

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家(ふじユニット)		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2392700031-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成28年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に不安なく楽しく過ごしていただき、職員全員が馴染みの関係となって共同生活を送れるように、「家族のようなあたたかい家」を目標に取り組んでいる。不穏状態になりやすい方や徘徊が目立つ方も増えてきたが、個別のニーズを汲み取って拘束にならない方法で声掛け、誘導など個別対応し、落ち着いて過ごせるよう支援している。ほぼ毎月外食レクを実施するほか、天王川公園や地元の行事もよく見に行っている。食事の支度(調理を除く)や後片付け、物干し等の簡単な家事も、入居者と職員が毎日協力して行う事で、日常生活自立度の維持に努めている。毎日体操の時間を設け、職員が工夫したレクリエーションと共に楽しみながら体力維持を図っている。毎年9月(開設月)にはご家族を招待して、一年間のスライドショーや職員の出し物を披露するイベントを開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中に落ち着いた色合いの事業所が位置し、今年で5周年を迎えた。地域には津島神社や天王川公園があり、四季の変化や祭りの賑いを感じながら散歩を楽しんでいる。法人の理念「あなたが楽しいとわたしは嬉しい」と事業所の理念「家族のようなあたたかい家」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地区の文化祭に、昔の思い出を辿ったり地域の伝統や風情をテーマにして入居者と一緒に作品を作り、毎年出展をしている。図書館へ出かけ、書物で昔の写真や地域の情報を見て懐かしんだり、昔から足を運んでいたお千代保稲荷へ出かけたりして日々の暮らしの中に回想法を取り入れて、馴染みの関係性を大切に支援をしている。絵手紙やちぎり絵、大正琴など市民ボランティアによる催し物は、入居者の趣味を活かせる楽しい活動の一つとなり、力作が飾られている。菜園で育てた野菜を収穫して献立に活かしたり、手作りおやつも皆で参加して作り、美味しさを分かち合っている。明るくゆったりとしたリビングでゲームや体操を楽しんだり、歌や会話などをして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合っ考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、思いやりを持って業務に当たっている。玄関と、ユニット内にも掲げている。	事業所の理念を目に付きやすい玄関や事務所に掲示している。簡素で分かりやすく3項目で表記して職員間で共有し、日々のケアに繋げている。また、ケアの中で職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深め実践に活かすように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらったほか、近所の飲食店や商店を外出先として利用したり、小学校の音楽鑑賞への参加、保育園児との交流行事、市民ボランティアの受け入れを行った。	町内会に加入し、回覧板を通して地域の情報入手し、行事などに参加している。地区の文化祭に作品を出展したり、祭りに参加している。日常的に散歩や買い物に出かけたり図書館を利用したりして、地域の人たちと挨拶を交わし、近隣に住む人たちとふれあう機会を大切にしている。	開設5年を迎え、より地域とつながりながら生活していくことを事業所として考えている。地域へ向け、事業所の周年祭への招待、交流室の開放、ADEの設置等を検討し、運営推進会議や回覧板を通じて広報し、地域の人が気軽に来て頂けるような工夫を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の夏祭りの説明会において、施設長が、認知症の方の対応について説明をしている。地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定して、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に沿って定期的開催している。特に行事と内部研修の説明に力を入れている。直接サービス向上とは関係ないが、地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになりました。	入居者、家族、地区囁託、民生委員、行政、法人職員の参加を得て、年に6回開催されている。事業所の研修報告、地域との情報交換などが行われている。また、プロジェクターで行事報告をし、出席者に喜ばれている。提案や意見は記録されカンファレンスで協議し、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。民生委員の研修の見学受け入れ先として、役所に登録してもらったが、見学の実績はない。	推進会議の資料等の配布や代行申請、更新手続きの折に、行政担当者と情報交換したり、困難事例などの助言や指導を得ている。また、市主催の研修会に積極的に参加したり、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めようとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。ユニット出入り口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。	身体拘束の研修会参加やマニュアルを通して意識を高め、スピーチロックや束縛感のない環境やケアに努めている。日々のケアの中で気付いた時は、職員間で注意し合っている。夜間の転倒防止に配慮し、離床センサーや涼やかな鈴の音で対応するなど入居者の状況に応じて工夫し、必要とされる段階、家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも気が付いたら、注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分に理解できてはいないが、職員会議の研修の場などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぐようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示、施設長への報告を行い、運営に反映させるようにしている。声掛けの調子が強い職員が気になるのご意見に基づき、接遇を見直す研修を行い改善に努めた。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握したり、運営推進会議や行事の後に感想を聞いたりしている。家族からは面会や行事の時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。ホームページや年4回発行しているホーム便り「長寿の家通信」などで家族に安心と信頼感を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長に報告、またはリーダーとケアマネとの運営会議にて話し合い、運営に役立っている。	日常の業務の中や引継ぎ時、また、全体およびユニットミーティングで職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。職員との個人面談もあり、目標に対する自己評価や要望、意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、極力各職員の希望を取り入れて調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めている。毎回研修受講シートの提出を義務付け、今後の目標を考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。同業者の見学に対してもオープンに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	挨拶や声かけを意識的に行い、話を傾聴し、安心して頂けるよう話をするようしている。また、体調や表情を注意深く観察するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのニーズを事前に職員に知らせ、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、接遇面にも気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を共有し、職員間でニーズを検討し、ご家族にも聞き取りを行い、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や洗濯など出来ることは一緒に行い、行って頂いたら、お礼を忘れないようにしている。時には、人生の先輩として、生活の知恵を教えてもらったりすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。また、日頃の様子も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にみえた時に、ゆっくり話が出来よう環境作りに努めている。昔の話を聞いたりして、懐かしの場所や人を思い出していただいている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。馴染みの公園や神社に出かけたり、伝統ある地域の祭りに出かけ、思いでや懐かしみを感じるような支援に努めている。家族の協力を得てお墓参りなどへ出かけたり、菜園での畑仕事、算盤や大正琴、習字など培った経験を活かすようにして、これまでの経験や馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が無く雰囲気が重い時は、職員が間に入り、逆にお互いに助け合っているような時には介入せずに見守って、お互いに良い関係が続くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所として積極的に関わっていく事はない。本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応する。再入所や系列事業所の利用希望には特に配慮して支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向をうかがうようにしている。困難な方には日常の様子観察の中から本人の思いや意向を汲み取るように努めている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取り、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話をうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合っ、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや担当者会議、フロア会議を利用して話し合えるようにしている。ご家族にも担当者が直接相談して計画づくりをしている。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を観察し、家族の意向等をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。3か月に1回の定期見直しや随時見直しをし、家族に内容を伝えている。どの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、プランのニーズに基づいた観察内容を記録している。ケア方法変更の提案は申し送りなどで共有し、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人によって、経過とともに変わるニーズに合わせ、可能な限り柔軟な個別対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、天王川公園や津島神社等のほか、市立図書館をよく利用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。	入所時にかかりつけ医、協力医の希望を聞いて選んで頂いている。内科の受診は2週に1度、歯科は月に1度主治医による診療を受けている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明している。	重度化した場合や終末期に向けた方針について、入居時に家族に説明をして同意を得ている。入居者の状態に合わせ、その都度、併設事業所に繋げるなどの具体的な支援等を話し合っている。看取りの支援に向け、医師や看護師、職員、その他の機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助が出来るように研鑽を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。また、施設内で救急隊員による救急救命講習を年に1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施している。避難の為のマニュアルを作成し、周知している。	防災の業者の立会いのもとに昼、夜間の火災を想定した訓練を実施し講評も得ている。様々な場面を想定し、職員も通報の手順、消火器の扱い方を熟知されている。水、食品、衣類、備蓄品は地域の災害に対応できるように、多めに整備されている。	災害時における事業所の体制や設備等についての周知や事業所として協力してもらいたいこと、事業所として地域にできることなどを運営推進会議等で具体的に話し合う機会を設け、相互に協力体制を構築していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の雰囲気や、その方の性格も考慮して、話しかけ方や場所、周囲の状況などに配慮している。	接遇研修をして職員の意識の向上を図っている。誇りやプライバシーを損ねないような声かけをしたり、その人の良さを知るように心がけている。日々のケアや申し送りの中で相互注意をし、入居者の人格や誇りを損なわないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺ったり、選択できるようにしたり、自己決定出来るような対応をしている。必ずしも希望に添える事ばかりではないが、まず希望を聞くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で日課のベースはあるが、入居者のペースを重視し、希望の訴えや表情から意思を汲んで支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は自由に楽しんでもらい、出来ない方には季節にあった服装を勧めたり、一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。調理レクやおやつ作りなども定期的に行っている。職員と一緒に食事をする機会が月に1回以上はある。	月1回入居者の希望を取り入れた献立や菜園で取れた野菜を食材にしたり、外食に出かけたりして、食べる楽しみが持てるように配慮している。入居者は保有能力に合わせて、盛り付け、片付けや洗い物など出来る事を職員と一緒にしている。ぜんざい、たこ焼きなどのおやつ作りも楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好みや体調に合わせて飲む物や量の調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や声掛けの仕方に気を付けている。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助(声掛けのみ、道具を渡して誘導、部分介助、全介助)をしている。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けて何度も声かけし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかんで誘導できるように取り組んでいる。介助が必要な方も、出来るだけ自分で出来るように接している。現在、おむつ使用の方はいない。	座位での排泄、おむつを使わない支援を目指し、排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、適切な声かけなどに心がけて支援をしている。現在おむつ使用者はおらず、状態の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料(牛乳、ヤクルト等)や運動を勧めたり、摂取物(バナナ等)を工夫し、予防に取り組んでいる。それでも改善しない時には、医師に相談し個々に合わせた薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮をしている。	2日に1度、午後の時間帯で入浴し、時間、湯温、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。入浴を拒む方は声かけなどを工夫して気持ちを和ませ、入浴を促したり、別の日に変えたりしている。菖蒲湯、ゆず湯なども楽しみのひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に休息してもらい、夜間も照明や温度に気を付け、気持ちよく休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送りをする。また変更時には、特に様子の変化に気を付けて観察するようにしている。何かあれば、すぐに医師へ連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や特技、好きそうな事を生かしたレクや作品づくり(編み物など)、歌、脳トレ(間違い探しや計算問題、大人の塗り絵など)などを提供するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物には対応できるように努めている。また、外食やドライブ等、ボランティアの方にも協力してもらい、対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に喫茶など外に連れ出して頂く事もある。	毎日のように四季の移ろいを感じながら職員と一緒に散歩をしたり、敷地内の畑の作業や草花の手入れを手分けして行い、収穫を楽しみにしている。地域のボランティアと共に桜や藤、コスモスの花見や、神社、公園にも出かけている。また、食材の買い物、喫茶店、図書館も欠かせない外出となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理だが、買い物などの際には、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話も持ち込み可だが、現在は該当者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して季節感のある作品を飾っている。席は、机の配置も含め、ご利用者同士の相性を配慮して決めている。	採光や風通しの良い食堂と居間がワンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。みんなでリクリエーションを楽しみ元気に過ごしたり、居間でテレビを見たりしてのんびり過ごしている。廊下を「東海道五十三次」に見立て歩行訓練できるように工夫している。明るい居間には、季節に応じた手作りの作品や行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファや相性を考慮した席順など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。ソファで日に当たりながら、本を読まれている方もみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来ていただいている方もあります。物や衣料を自分で整理できない方もあり、一部を別の場所に預かるなどして、居室の環境作りに努めている。	自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に椅子に座っていただくために、歩行不安定な方の座られる椅子の近くの床に、歩行器具を置く位置の目印を付ける等の対応をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700031		
法人名	社会福祉法人 愛燦会		
事業所名	グループホーム長寿の家(さくらユニット)		
所在地	愛知県津島市江西町4-148		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2392700031-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者に不安なく楽しく過ごしていただき、職員全員が馴染みの関係となって共同生活を送れるように、「家族のようなあたたかい家」を目標に取り組んでいる。不穏状態になりやすい方や徘徊が目立つ方も増えてきたが、個別のニーズを汲み取って拘束にならない方法で声掛け、誘導など個別対応し、落ち着いて過ごせるよう支援している。ほぼ毎月外食レクを実施するほか、天王川公園や地元の行事もよく見に行っている。食事の支度(調理を除く)や後片付け、物干し等の簡単な家事も、入居者と職員が毎日協力して行う事で、日常生活自立度の維持に努めている。毎日体操の時間を設け、職員が工夫したレクリエーションと共に楽しみながら体力維持を図っている。毎年9月(開設月)にはご家族を招待して、一年間のスライドショーや職員の出し物を披露するイベントを開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中に落ち着いた色合いの事業所が位置し、今年で5周年を迎えた。地域には津島神社や天王川公園があり、四季の変化や祭りの賑いを感じながら散歩を楽しんでいる。法人の理念「あなたが楽しいとわたしは嬉しい」と事業所の理念「家族のようなあたたかい家」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地区の文化祭に、昔の思い出を辿ったり地域の伝統や風情をテーマにして入居者と一緒に作品を作り、毎年出展している。図書館へ出かけ、書物で昔の写真や地域の情報を見て懐かしんだり、昔から足を運んでいたお千代保福荷へ出かけたりして日々の暮らしの中に回想法を取り入れて、馴染みの関係性を大切に支援している。絵手紙やちぎり絵、大正琴など市民ボランティアによる催し物は、入居者の趣味を活かせる楽しみな活動の一つとなり、力作が飾られている。菜園で育てた野菜を収穫して献立に活かしたり、手作りおやつも皆で参加して作り、美味しさを分かち合っている。明るくゆったりとしたリビングでゲームや体操を楽しんだり、歌や会話などをして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合っ考えた「家族のようなあたたかい家」という理念を共有し、思いやりを持って業務に当たっている。玄関と、ユニット内にも掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も、地区の文化祭行事に入居者の作品を出品させてもらったほか、近所の飲食店や商店を外出先として利用したり、小学校の音楽会鑑賞への参加、保育園児との交流行事、市民ボランティアの受け入れを行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の夏祭りの説明会において、施設長が、認知症の方の対応について説明をしている。地域貢献の一環として、災害時に近所の方が避難してくる事を想定して、非常食などの備蓄品の量に余裕を持たせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定に沿って定期的開催している。特に行事と内部研修の説明に力を入れている。直接サービス向上とは関係ないが、地域連携の意味合いで、回覧板を回して頂くようになりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議の時に、制度上の事、届け出の事等を相談している他、入居者や待機者の情報交換も行っている。民生委員の研修の見学受け入れ先として、役所に登録してもらったが、見学の実績はない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議でも研修・事例検討を行い、理解を深め、拘束をしないよう努めている。ユニット出入口と玄関の施錠は最低限にするよう取り決めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の研修などもあり、意識している。職員間でも気が付いたら、注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分に理解できてはいないが、職員会議の研修の場などで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一元的に行っている。締結・解約は直接説明しており、改訂等は文書で説明の上同意書をいただいている。職員が問い合わせを受けた場合は管理者に繋ぐようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は随時受け付けており、管理者が内容を集約し、職員への指示、施設長への報告を行い、運営に反映させるようにしている。声掛けの調子が強い職員が気になるのご意見に基づき、接遇を見直す研修を行い改善に努めた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は原則フロアで意見内容をまとめ、フロアリーダーを通じて報告を上げる。管理者は常時意見を受け付けており、内容を集約して施設長に報告、またはリーダーとケアマネとの運営会議にて話し合い、運営に役立てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、各職員の面談に基づいて把握し評価している。勤務時間帯や希望休については、極力各職員の希望を取り入れて調整を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で1～2題の内部研修を実施して技術と知識の向上に努めている。毎回研修受講シートの提出を義務付け、今後の目標を考えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて他施設の行事や研修に参加できる体制を取っている。同業者の見学に対してもオープンに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で出来る限り、コミュニケーションをとるように心掛け傾聴し、より良い関係作りに努めています。また、会話の難しい方には、表情や状態を見ながら思いを汲み取れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのニーズを事前に職員に知らせ、入居時や面会でみえた時などにお話を伺い、必要な内容は職員間で共有している。また、接遇面にも気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を共有し、職員間でニーズを検討し、ご家族にも聞き取りを行い、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら、意思を尊重し、出来る事(ご飯の盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ等)は一緒に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やプラン作成時には、家族のニーズもお聞きしている。必要に応じて家族に協力をお願いする事もある。また、日頃の様子も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、帰られる際にまた来て下さるようにお話する。手紙等が届いた時は、返事を出せるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立される方がないように、職員が会話やレクリエーションの際にご利用者の間に入ったり、配慮して良い関係が続くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所として積極的に関わっていく事はない。本人・家族及び現在サービスを受けている事業所等の求めに応じて対応する。再入所や系列事業所の利用希望には特に配慮して支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話、言動、表情などを汲み取りながら、また、3ヶ月に1回のモニタリングにおいても希望、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査の内容や資料を職員間で共有し、本人や家族からも直接お話をうかがうなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察と情報共有によって努めている。職員間で話し合っ、変化に応じた対応方法を考え、現状や変更内容を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや担当者会議、フロア会議を利用して話し合えるようにしている。ご家族にも担当者が直接相談して計画づくりをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、日々の様子、状態、変化、ケアプラン等の記載をしている。職員間で情報共有し、話し合いながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態・状況に応じたニーズ・サービスを導入するように努め、柔軟な個別対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所として、天王川公園や津島神社等のほか、市立図書館をよく利用する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は同意のもとで嘱託医がかかりつけ医になり、定期的な訪問診療を行っている。希望に応じて以前からのかかりつけ医の診療を継続する事も可能である旨、入所前に説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問時に変化や状況を伝え、助言をもらい、医療機関へ繋いでいる。訪問看護師へ伝える事をまとめる用紙を作成して、漏れのないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提供や、必要に応じての情報交換を行っている。入所希望者の情報交換の兼ね合いもあり、市民病院の医療連携室とは連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の重要事項説明において、事業所の現在の体制と方針を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員会議において対応について研修を行っている。また、施設内で救急隊員による救急救命講習を年に1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、それぞれ昼と夜の想定で防災訓練を実施している。避難の為のマニュアルを作成し、周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格にも配慮し、人生の先輩として敬意を払いつつも、親近感を感じられる対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、考えたり、決定してもらえるように、入居者に応じて質問の仕方を工夫したりして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で日課のペースはあるが、出来る限り一人一人の希望や、その時々体調、気分に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自由に楽しんでいただき、そうでない方も着替えを選んでもらったり、身につける物を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けは、職員とできる入居者が協力して毎日行っている。調理レクやおやつ作りなども定期的に行っている。職員と一緒に食事をする機会が月に1回以上はある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の好みや体調に合わせて飲む物や量の調整を行っている。水分摂取不足にならないように、摂取内容や声掛けの仕方に気を付けている。摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた援助(声掛けのみ、道具を渡して誘導、部分介助、全介助)をしている。義歯を外すなど嫌がられる事もあるが、時間を空けて何度も声かけし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その方に合わせた時間や動きを見て、声掛け誘導を行うようにしている。おむつ使用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排便状況を把握し、飲料(牛乳、ヤクルト等)や運動を勧めたり、摂取物(バナナ等)を工夫し、予防に取り組んでいる。それでも改善しない時には、医師に相談し個々に合わせた薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿うよう対応しているが、基本の曜日や時間帯は決まっている。気持ちよく入浴できるように、声掛け誘導にも個別に配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンに合わせて休んでいただいている。夜間は、入床が遅すぎるようであれば、声をかけて促したり、飲み物を出して落ち着いて頂くような対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更があった時などには、フロアの職員が分かるように申し送りをする。また変更時には、特に様子の変化に気を付けて観察するようにしている。何かあれば、すぐに医師へ連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に希望や楽しみごとをうかがい、それに沿えるようなレクや雰囲気作りを考えている。将棋をしたり、花を育ててもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所への買い物には対応できるように努めている。また、外食やドライブ等、ボランティアの方にも協力してもらい、対応をしている。時には、家族の方にも協力してもらい、気分転換に喫茶など外に連れ出して頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理だが、買い物などの際には、可能な方には自分で財布を持って支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。携帯電話を持ってみえる方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面などを利用して季節感のある作品を飾っている。席は、机の配置も含め、ご利用者同士の相性を配慮して決めている。無造作に物を置いておくと持って行かれる方がある為、目隠し等して置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外に自由に使えるソファや相性を考慮した席順など配慮しており、独りが好きな方も、仲の良い方同士も、自由に過ごせるようにしている。ソファに腰を掛けて仲良く話をされている姿がよく見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族との写真などを持って来ていただいている方もあります。物や衣料を自分で整理できない方もあり、一部を別の場所に預かるなどして、居室の環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に、その方の状態に合わせた迷わない為の目印を付ける等の対応をしている。		